日本医療機能評価機構認定病院
那珂川病院だより
病院理念 ― 思いやりそして努力　奉仕そしてよろこび

VOL.54 平成25年5月
〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17
TEL.092-565-3531（代）
FAX.092-566-6460
http://www.nakagawa-hp.com
（携帯電話でもご覧いただけます）

副院長に就任して

那珂川病院　放射線科　大内田 敏行

昨年5月に、外科の吉村 寛志先生とともに副院長に就任いたしました。前任の森久喜八郎先生（整形外科）が退職されて以来、副院長不在となっていましたので、これから吉村先生とともに院長を支え、病院の発展に寄与していきたいと考えております。

私は2003年の4月に当院に赴任しましたので、今年で丁度10年目になります。この10年の那珂川病院の歩みを放射線科医の立場から振り返ってみたいと思います。この間CTは2回更新され、現在は最新の64列の装置が導入されています。心臓のカテーテル検査を行わなくても冠動脈の画像を作ることができるようになりました。透視装置も5年前よりデジタル方式となり、血管造影にも対応しています。一昨年から待望のMRI、マンモグラフィも導入されました。しかしながら、最も重要なイノベーションは9年前に導入されたPACSではなかったかと思います。PACSとは画像をコンピュータで見るシステムのことですが、なぜこれが重要かと申しますと、過去画像との比較およびダブルチェックが容易になったからです。

例えば肺に「影」が認められた場合、10年前より変化がなければ良性のものと考えられますが、1年前になく新たに出現したものであれば、肺癌などを考える必要があります。こういった比較読影が効率的に行えるようになりました。またフィルムの時代には一般レントゲンは、多くの場合主治医のみが読影していましたが、複数の医師が診ることが容易となり、チーム医療が行いやすくなりました。こういった一見地味なインフラの整備は非常に重要であると感じています。

一方、病院全体の歩みをみますと、この10年で職員数は大幅に増加し、建物も増改築され、緩和ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟が新設され、電子カルテが導入されました。さらに院内託児所が開設され、子育て中の職員が働きやすい職場となりました。医師不足、医療崩壊などが叫ばれる中、お陰様で那珂川病院は着実な歩みを遂げています。これからの10年間も、さらに発展し充実した医療活動を続けていけるよう、微力ながら努力してまいりたいと思います。

最後に趣味について。小学生の時に友人と関門トンネルをくぐり下関までサイクリングしたのをはじめに、中学時代には長崎と熊本に自転車旅行をしたことがありました。それ以来縁遠くなっていましたが、5、6年ほど前から運動不足、メタボ対策で再び自転車を始めました。3年前から若手に混じりツールド国東などの大会にも出ています。有酸素運動ですので体重コントロール、心肺機能向上にもよく、1人でも大勢でも楽しめるので、お勧めの健康法です。

ミズバショウ

父の思い出

小田 弘美（田尻廣幸氏の長女）

父からすい臓ガンだと知らされたのは昨年の1月末でした。私は「嘘やろ?」と父に言うと、「本当!! 他の検査をしていたら、たまたま見つかった。早期だから大丈夫、チョット切れば治るらしい」といつもの口調でした。

そして2月6日手術を受けましたが、ガンはかなり大きく、リンパ節にも肝臓・脾臓にも転移しているとの事で、すぐに抗ガン剤治療が始まりました。父は「絶対ガンには負けない」と3クール頑張りましたが良い結果は得られず、その途中に糖尿病を併発し食事も摂れず体力が落ちました。お腹の痛みが激しく意識がもうろうとなる事が多くなり、考えられない行動をとる事も増えて来ました。もう私の知っている父ではありませんでした。そんな姿を見るに耐えられず、私と主人はすぐ那珂川病院に相談に伺いました。「ホスピスに入れるという事はもう絶対に助からない。父を見捨てるようで、本当にこれでよいのだろうか?」と心の葛藤がありました。しかしその時はこれ以上苦しませたく無い気持ちが強く、「もう父には時間がありません。1日でも早く受け入れて下さい」と懇願して帰りました。そして早々に入院可能との返事をいただき、すぐに父を那珂川病院に転院させました。

しかし父は意識がもうろうとしていました。せっかく転院させてもらえたけど“遅かった”と思いました。ところが次の日に父は意識もハッキリして「お腹が空いた」と、カキ氷、すいか、桃と自分の好きな物をペロリと食べてしまいました。オマケに音楽療法士さんに好きな曲を弾いてもらい歌まで歌って…私は神様に感謝しました。もう二度と父の元気な姿を見る事などできないと思っていたので本当に感激し、「このままガンが消えて無くなるのでは、奇跡が起こるのでは?」とさえ思え、今にも涙がこぼれそうになるのをグッとこらえました。父にはここがホスピスだという事を内緒にしていたので、看護師さん達にも大変気を使わせた事だろうと思います。すみませんでした。

それから3週間、父は好きなカラオケも歌え、食事もそこそこ食べる事が出来、外泊もしました。病棟の催しに参加させていただいて、七夕祭りでは父に私の最後の浴衣姿を見せる事ができましたし、その上皆様に私の誕生日まで祝ってもらえて、本当に良い想い出となりました。ありがとうございました。

父が眠りにつく2日前、私の手をぐっと強い力で握りしめ、ただ私の目を見つめていました。やせ細った体のどこにそんな力が残っているのかと思いました。その光景が今でも目に焼き付いています。そして7月13日金曜日午前10時8分、父は永遠の眠りにつきました。私は父にしがみつき号泣しました。父の体は温かくて、父の死を受け入れることができませんでした。とても言葉では言い表せない初めて経験する気持ちでした。

あれから7カ月…やっと父がいない事を受け入れられるようになりました。それまでは色んな事を考え何も手につかず、食事ものどを通らず夜も眠れませんでした。私も父の元に行こうとさえ考えるようになっていました。今思えばノイローゼですよね。そんな状態の中で主人に叱られて、初めて胸につかえていた思いをぶつけ、思いっきり泣きました。そうしたら少し気持ちが軽くなったようで、それからは自分の気持ちをためこまず思いを詩にしてノートに書き綴るようにしました。そして今の自分があります。辛い悲しい思いは皆様も一緒だと思います。その気持ちを癒してくれるのは時間だけしかないのだろうと思います。元の自分にもどるまで、まだまだ時間はかかりそうですが、皆様もどうか今の場所から一歩歩き出しましょう。そしてゆっくりゆっくり前へ進んで行きましょう。

今では月に1度、夢の中ですが父は私に逢いに来てくれます。それが待ち遠しくてなりません。父は今も私のそばに居て見守ってくれていると思っています。今日もきっと私がこの場で話している姿を見て、最高の笑顔で喜んでくれている事でしょう。私達家族にとっても父にとっても、最後まで穏やかな時間を過ごす事ができたこのホスピスという医療機関に感謝します。そしてこのような機会を与えていただきました事を、心から感謝いたします。ありがとうございました。

（平成25年2月23日 追悼会のスピーチより）

緩和ケア統計2012年（1月1日～12月31日）

入院相談		**199件**
緩和ケア病棟（定床 20）		
入院件数	190件（149名）	
退院件数	191件（152名）	
平均在院日数	37.5日	
1日平均患者数	19.85名	
在宅ケア		**25名**
在宅看取り	9名	
緩和ケア病棟入院患者　149名の内訳		
年齢	29～97歳（平均 72）	
男女比	85：64	
疾患名	肺癌	29
	大腸癌	19
	肝癌	17
	胃癌	14
	膵癌	14
	腎癌	6
	前立腺癌	6
	その他	44
紹介元の医療機関	九州がんセンター	64
	当院	15
	九州医療センター	7
	福岡赤十字病院	6
	九州中央病院	6
	九州大学病院	5
	済生会福岡総合病院	5
	その他	41
患者住所	福岡市南区	61
	春日市	27
	那珂川町	26
	福岡市博多区	8
	大野城市	7
	太宰府市	5
	その他	18

ボランティアだより

今回は二胡演奏をされている『メリーポピンズ』の活動内容をご紹介します。

毎月最終月曜日 14：30～15：30の間、4階病棟談話室にて中国の楽器「二胡」を3～4人のグループで演奏、二胡の伴奏に合わせて患者さんやご家族が歌を口ずさむ場面をお見受けすることもあります。

グループ名『メリーポピンズ』は、ディズニーの同名映画「メリーポピンズ」をイメージしています。映画の主人公のように魔法を使うことはできませんが二胡の音色で、弾く人と聴く人が共に心を和ませ、楽しいひとときを共有できればとの思いからつけられたそうです。

二胡は、中国の民族楽器で、唐の時代に西洋のヴァイオリンをモデルに作られたと言われています。六角形（八角形もある）の筒状の前面にニシキヘビの皮を張り、棹にスチール製の弦を張っています。この弦と弦の間に、竹と馬の尾毛でできた弓を通して弾きます。日本では「胡弓」と呼ばれる場合もありますが全く違う楽器です。楽器は中国の楽器ですが、演奏する曲はほとんどが日本の曲です。中国の楽器が奏でる、日本の曲もまた情緒があっていいものです。

当院では随時ボランティアを募集しています。ご興味のある方、実際のボランティア活動をご覧になりたい方、お気軽にご連絡ください。また、9月から翌年2月まで全6回、下記日程にてボランティア養成講座を開催します。たくさんのご参加をお待ちしております。

●ボランティア養成講座

期　日	テーマ・講師
平成25年 9月21日（土）	『緩和ケアとは』 ●緩和ケア病棟師長　植木 昭代
平成25年 10月19日（土）	『身体症状の緩和』 ●緩和ケア病棟医長　原口 勝
平成25年 11月16日（土）	『精神的ケア・スピリチュアルケア』 ●緩和ケア病棟師長　植木 昭代
平成25年 12月21日（土）	『家族ケア』 ●臨床心理士　髙﨑 彩
平成26年 1月18日（土）	『社会的援助・チームアプローチ』 ●ソーシャルワーカー　伊東 良子 ●訪問看護師主任　松下 徳代 ●管理栄養士　林田 由美子
平成26年 2月15日（土）	『ボランティアとは』 ●福岡ホスピスの会　神谷 佳子

会場　那珂川病院／５階研修室
時間　14：45～15：45
問い合わせ　ボランティアコーディネーター　山下 公子（ひろこ）

在宅支援センターの開設

訪問看護師 ● 松下 徳代

新緑の季節を迎え、清々しく過ごしやすくなりました。

那珂川病院はこの度、在宅支援センターを開設することになりました。既に皆さまの目に留まっていると思いますが、第1駐車場横3階建ての緑をイメージした建物です。建物の緑はポリエチレン製で葉の形をしており、UV吸収剤配合のグラスリーフフォーマットというものです。エコを考えた建築デザインとなっています。また、第1駐車場から建物へはスロープでつなぎ車椅子の方でも出入りがし易くなっています。在宅支援センター内は、1階が居宅支援事業所（介護支援専門員が所属する事業所）、そして、3階が訪問看護ステーションとなっています。

これまで那珂川病院の訪問看護は、当院に通院されている患者さんのみの訪問と限られていましたが、今後は地域の病院、診療所に通院されている患者さんにも訪問看護を提供できるようになります。訪問範囲としては、南区、春日市、那珂川町と案内していますが、この他にも要望があれば、可能な限り対応し、24時間、365日体制でサポートします。

初代、那珂川病院院長 井上繁孝先生は、常々、地域の中核病院として発展していくために、あえて病院名に個人名を使わず那珂川病院とされたこと、さらに病院を開設した以上、個人の所有物でなく病院はそこに働く全従業員と地域住民のものである、と言われていたと聞いています。安心して生活できる地域社会を見据えたお言葉だと思います。地域住民の方々が病気を持たれていても、自宅で生活者としての療養を可能にするためには、医療・介護の支えが必要です。病院医療と在宅医療が上手く調和しながら、地域の先生方や訪問看護ステーション、介護事業所の皆さまと連携をとり合い、よい一層の支援体制を強化できることが必要だと思います。

私ども訪問看護師および介護支援専門員は、地域の中で在宅医療に携わり在宅の患者さんとその家族から多くを学び、この仕事の大切さを確信しています。今後も地域に根ざした在宅医療活動ができるよう努力していきたいと思います。

在宅支援センター建設にあたっては、工事関係者の方々、地域の皆さまには多数ご協力いただき感謝申し上げます。

那珂川病院デイサービスセンター清和の開設について

那珂川病院デイサービスセンター清和　施設長　山本 道男

永年の懸案でありました介護事業「那珂川病院デイサービスセンター清和」を、平成25年1月4日付で開設する事ができました。

同センターでは緑あふれる福岡市南区柳瀬の住宅街の静かな環境の中に位置しております。

施設の総面積は150坪（内1階は146坪）で、広々とした機能訓練室（62坪）では15名の優秀な介護スタッフのきめ細かなサポートにより利用者の皆さん（20～30名）は、毎日明るく元気いっぱい楽しくゆったりとした1日を過ごしておられます。

利用者さんの年齢層は60歳代～100歳代まで幅広く、また介護度も要支援1～要介護3までの利用者さんが中心です。特に利用者さんの関心の高い食事は、厨房職員の心のこもった豊富なメニューで、大変好評をいただいております。

●センターの1日の流れとしましては下記の通りです。

10:00	バイタル（検温、脈、血圧）チェック 朝の会、ストレッチ
10:30	入浴、機能訓練
12:00	昼食
13:00	転倒予防体操、入浴
14:00	クラブ、レクリエーション
15:00	おやつ
16:00	ミニレクリエーション
16:30	ストレッチ、帰りの会

●1年間の行事としましては下記の通りです。

◉2月：節分　◉3月：ひな祭り　◉4月：桜の花見物
◉7月：夏祭り　◉8月：餃子大会　◉9月：敬老祝賀会
◉10月：運動会　◉12月：クリスマス会 & 忘年会

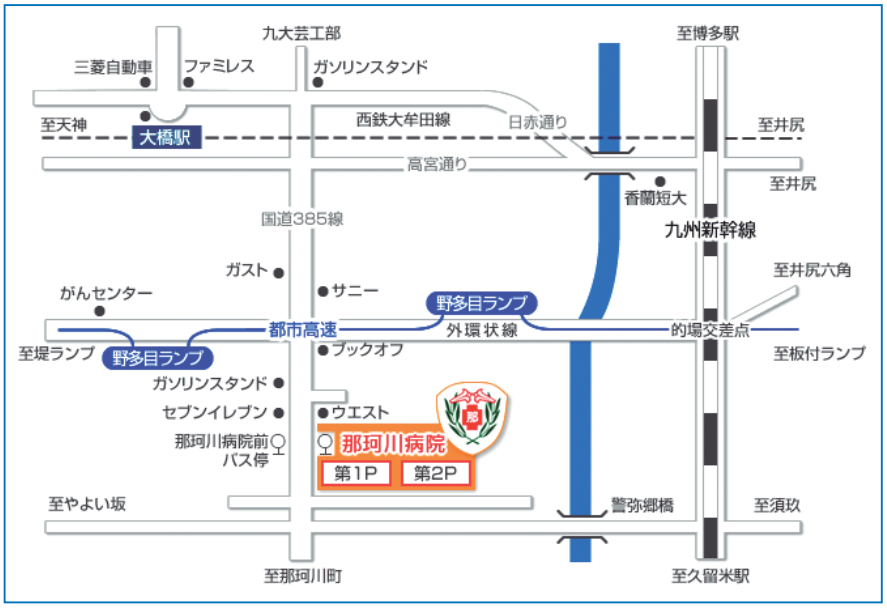
などです。

また、毎月食事ドライブにも出掛け大変好評です。

今年は、例年になく桜の開花予想が早まり、当センターの実施予定を1カ月繰り上げ、3月21･22･23日に分かれて、那珂川町の中島公園に行ってきました。桜もほぼ満開で、横に小川も流れており、利用者さんも「昔に帰った気がする―― 懐かしい」と大変満足しておられました。

現在開設後3カ月を経過したばかりで改善すべき点も多くありますが、4月より充実した活動をしてまいります。今後は既存の利用者の皆さんはもとより、多くの新規利用者さんに利用していただくため、さらにきめ細かな心のこもったサービスを心がけ利用者の皆さんにとって、魅力的で生きがいのあるデイサービスセンター清和を目指して、スタッフ一同「For You」の精神で努力してまいります。

皆様方には今後共利用者さんのご紹介、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



【交通】西鉄バス系統番号4番・47番・62番・620番「那珂川病院前」下車すぐ　■駐車場150台

常勤医師診療担当表

医師名	担当領域
下川　敏弘	消化器外科、呼吸器外科、透析
大国　貴史	消化器外科、透析、漢方
古賀　健資	消化器外科、呼吸器外科
吉村　寛志	大腸・肛門外科、消化器外科
宮脇　龍一郎	循環器内科
筒井　伸一	消化器内科
大内田　敏行	放射線科
片桐　邦彦	脳神経外科
金宮　八重子	脳神経外科
原口　勝	緩和医療
古賀　善彦	リハビリテーション科（回復期）
熊澤　浩明	外科
福永　昌幸	麻酔科・外科・救急
竹内　一馬	血管外科・循環器内科
横山　良平	整形外科
月江　教昭	緩和医療・内科
溝上　浩士	整形外科
安藤　智惠	循環器内科
犬塚　貞明	緩和医療

平成25年5月1日現在